

連載企画

市民活動への思いを語る!

みやざきの熱いひとから

宮崎の市民活動のリーダー 第3回



特定非営利活動法人
子ども虐待防止みやざきの会 会長

甲斐 英幸さん

行政マンとして、児童福祉に関わったことから虐待防止の活動を開始。
実践するための「学び」の先頭に立ち続ける人

支援者中心だからできること

●問題の起きた環境に広く目を向ける

私たちの会は児童虐待に関する3年間の勉強会を経て、結成されました。様々な職業をもつ支援者中心の組織です。

客観性と中立性を失わないよう支援しています。活動においては、問題の周辺に目を向けるようにしています。勉強会を継続するのも、虐待が起こる理由や要因を深く理解するためです。

そのことで、虐待される子ども達だけでなく、虐待する親が一種の被害者の場合もあることが判ります。当事者を救うとともに問題が起きる社会的原因を解決することは市民活動の使命でもあります。

宮崎で活動する中で心がけていること

●世界と宮崎と両方を知ること

虐待防止への取り組みについては問題が深刻なアメリカが先進地です。「気づいたのが早い」ので、具体策が実施されており、それを知ること、日本における将来像がかなり見えてくるということです。

一方で、問題に取り組むには宮崎における地域性も理解しておく必要があります。宮崎の家庭経済や社会環境が虐待の発生に密接に関連している場合も多いのです。

実践に生かすことを念頭に情報と知識の入手に多くの時間と豊富とは言えない資金を使っています。

市民活動も歴史に学ぶこと

●普遍的なものが見えてくる

子どもが虐げられる事実は、形は違っても昔からありました。人身売買などです。

虐待という言葉がよく使われるようになったのは、1970年代のコインロッカーベイビー事件からですが、それが虐待の始まりではないのです。

歴史における子どもへの様々な虐待がいかなる理由で発生したか、その時代社会はどのように対応したかを知ることも重要です。

世界と歴史を知ることによって日本社会の中で現在起きている問題を普遍的な見方でとらえることができ、解決へ向けての広角的、複眼的な見方につながると考えています。

地域活動と市民活動の協働

●お互いのつながりに気づくことで連帯感が

活動をしていて、地域の子ども会、スポーツ少年団などは、虐待防止に貢献されているなど実感しています。ただ、意外とそのことに気づかれていない場合が多いのです。

地域活動と市民活動の関係者が互いに活動の内容を理解し、評価しあう機会を持つことが大事だと思います。

それが連帯感を生みだし、活動の結びつきが強固になり、ネットワークが築かれていくことで家族や夫婦に関連する様々な問題の解決につながると確信しています。

